

令和8年

花火入門



公益社団法人
日本煙火協会

花火入門

目次	
はじめに	2
花火とは	3
1. 花火の歴史	5
2. 花火の性質	7
3. 花火の材料	8
打揚・仕掛花火について	9
1. 打揚花火	11
(1) 玉の種類と仕組み	11
(2) 昇曲付（昇曲導付）	12
(3) 昼の花火	12
(4) 玉名	12
(5) 玉の大きさと重さ	16
(6) 玉の高度と開き	17
(7) 打ち揚げ方と仕組み	18
(8) 打揚花火の鑑賞法	20
(9) 日本の打揚花火の特色	21
(10) 打揚花火の進化	22
2. 仕掛花火の種類	23
3. 伝統花火	24
4. 演出効果用花火	24
おもちゃ花火について	25
1. おもちゃ花火の種類	27
2. おもちゃ花火の生産と販売	30
3. おもちゃ花火に関する法的規制と当協会の安全基準	31
4. おもちゃ花火を安全に楽しむために	37
(1) おもちゃ花火を安全に楽しむための11カ条	37
(2) 消費啓発活動	41
(3) マナーアップ運動について	43
(4) 花火の保管と処分方法	44
(5) 着衣に着火した場合の対処方法	44
(6) やけどをした時	44
(7) その他注意事項	44

はじめに

花火は、情緒豊かな「線香花火」などのおもちゃ花火から、花火大会で打ち揚がる迫力満点の打揚花火まで、色々な花火が夏の夜を彩り、老若男女を問わず楽しんでもいただけるとともに、人々の心を癒す日本の伝統文化です。

その一方で、花火は原料が火薬であることから取り扱いには十分な注意も必要となり、花火を楽しむためにはルールやマナーを守ること大切です。

花火に関連する事故は、減少傾向にあるものの毎年発生しており、特におもちゃ花火の事故原因は、使用上の不注意によるものがほとんどです。

当協会は、今年もホームページやポスター・しおりなどの印刷物を通じて花火に関する各種情報を提供するとともに、おもちゃ花火の文化伝承と安全広報の周知を目的に、8月7日を「おもちゃ花火の日」として記念日登録したことに伴い、以前にも増して「ルールを守って楽しい花火」をスローガンに全国で安全啓発運動を行っています。



＜おもちゃ花火の安全検査合格マーク＞



本冊子では、打揚花火からおもちゃ花火まで、花火を興味深く安全に楽しんでいただくために、花火に関する正しい知識や情報についてまとめてみました。

令和8年6月
公益社団法人日本煙火協会

花火とは

目次

1. 花火の歴史	5
2. 花火の性質	7
3. 花火の材料	8

.....

花火とは

花火は法律用語で「煙火^{えんか}」とよばれており、火薬類を燃焼または爆発させることにより、光（色火）、音、煙を発生させるもので、観賞、信号、がん具などに用いられています。

花火を大別すると花火大会などで使用される打揚花火や仕掛花火などの「煙火」と、一般家庭などで使用されるおもちゃ花火などの「がん具煙火」とに分けることができます。

1. 花火の歴史

花火の原料となる火薬（黒色火薬）の発明については諸説ありますが、古くは中国における錬金術・煉丹術^{れんたん}に関する紀元前の時代にさかのぼります。

12 世紀ごろになると、黒色火薬は実用化となり火器などの軍事に利用された後、「爆竹」などの花火として使用されるようになり、中国からイスラム諸国を経てヨーロッパへ伝わったと考えられます。

ヨーロッパでの近代花火は、14 世紀にイタリアのフィレンツェでキリスト教のお祭りとして行われ、その後ヨーロッパ各国に広まったといわれています。

日本では 16 世紀の戦国時代に鉄砲「火縄銃」とともに黒色火薬が伝来しましたが、当初は鉄砲の他に軍事的通信手段である「のろし」での使用が主流で、現在のよう遊びや観賞用の花火が登場するのは、江戸時代に入ってからとなります。

日本での花火観賞の記録としては、天正 17 年（1589 年）7 月に伊達政宗が米沢城で見たというものや、慶長 18 年（1613 年）8 月に徳川家康が駿府城で見たという記録がありますが、いずれも唐人（明国人）が披露した花火でした。

また、家康が花火を見た 15 年後の寛永 5 年（1628 年）に、天海僧正と浅草寺の僧侶が江戸に来た京都の僧侶をもてなすため、隅田川に船を出した際に、花火を楽しんだという記録もあります。

その後、武士の火術にも変化が見られ、江戸の大川端（隅田川下流）にある大名の下屋敷などで武士の花火が披露され人気



子供遊花火の戯（資料提供：両国花火資料館）

を博しました。

花火の流行は江戸庶民の遊びにも広がり、市中での「花火売り」や「花火師」も登場します。

しかし、この流行とともに花火が原因による火災が多発したことから、幕府より江戸市中での花火禁止に関する「町触れ」が出され、花火を行ってよい場所も大川端（隅田川河口付近）での船上花火に制限されることとなりましたが、花火の流行は止まらず、以後このようなお触れが毎年出される結果となります。

当時の隅田川では、特に繁華街がある河口部で花火が行われていましたが、17世紀の両国橋架橋により両国橋周辺が花火の名所となりました。

18世紀には船遊びで花火を楽しむ文化が定着し、19世紀には花火の技術も発達し、川開きの行事として数々の浮世絵にも登場することとなります。

このころ活躍した花火師が、有名な鍵屋弥兵衛や玉屋市郎兵衛で、今でも屋号が打揚花火の掛け声の定番となっています。

この「両国川開き花火」は19世紀に大きく発展し、江戸の年中行事となったことから、夏の花火大会のルーツといえます。

花火を行ったり、楽しんだりする風習は、江戸だけではなく全国各地にあり、現在も伝統行事として続いているものも多く、これらの地域では祭礼のときに、火薬の知識のある郷土などにより「立火」^{たちび}（噴出花火）や「流星^{りゅうせい}または龍^{りゅうせい}勢」(ロケット式花火) など様々な花火がつくられ奉納されてきました。

特に、愛知県三河地区は徳川家康のお膝元で、直属の火薬製造所があり鉄砲隊の本拠地であったことから花火が盛んな土地柄で、現在でもおもちゃ花



東都両国夕涼之図（資料提供：両国花火資料館）

火の製造や販売業者が特に集中し、日本全国の流通起点となっています。

明治時代に入ると、海外からマッチの原料である塩素酸カリウムをはじめストロンチウム、アルミニウムなどが輸入され、これらの新しい薬剤により、それまでは炭火色（^{だいたい} 橙色）の強弱の表現が主であった花火が、明るく豊かな色彩を出せるようになりました。

この時代に活躍したのが三河出身の平山甚太で、彼の発明した昼の花火が明治16年（1883年）に日本人として初の米国における特許第一号を取得しました。

大正・昭和に入っても、明治に引き続き新しい薬剤が導入され、花火技術は飛躍的な進歩を続け、花火師においても長野の青木儀作、滋賀の廣岡幸太郎などの名人が登場し、数々の名作花火をつくり出しました。

太平洋戦争中は花火の製造も中止され、戦後はポツダム政令により一切の火薬製造が禁止されていましたが、昭和23年のGHQによる花火製造の解禁以後、徐々に復活していきます。

今日では、長年における技術開発の努力もあり、日本の花火は世界で最も精巧で華麗なものとして世界中から絶賛されています。

現在日本の花火は、日本独特の割物「^{わりもの たじゅうしんきつかがた}多重芯菊花型」（芯が複数入った菊花型の花火）の様式美を基本に、より高度の域まで高めるとともに、発光が時間差で変化するなど、独創的なパターンの花火を考案する方向に向かっています。

夏期シーズンはもとより、全国各地でさまざまな花火大会が開催されていますが、最近ではコンピューター制御による、花火と音楽をシンクロさせた演出方法も進化しており、ドローンとの共演なども各地で行われています。

近年、化学的知識を学んだ若い花火師も活躍しており、彼らの斬新な考え方と「温故知新」の精神をもって、さらなる日本の花火の発展が期待されています。

2. 花火の性質

花火は、光（色）、音、煙、それに形状の4つの要素で構成されています。これらの要素は火薬類の配合・組み合わせや形状によって、さまざまに変化させることができます。

燃える温度が高いほど光は明るくなり、配合剤の組み合わせを変え色彩を変化させます。

音は爆薬を用いて爆発させるか火薬を燃焼させて、その発生ガスが急激に膨張するときに発生します。

そして、含有物（染料や顔料）が不完全燃焼するときや蒸発するときに煙が発生します。

3. 花火の材料

花火に使われている火薬の材料には、酸化剤、可燃剤、色火剤、発煙剤などに分類される薬品が使われています。

光と煙が花火の重要な美的要素ですが、光は基本的に酸化剤、可燃剤、色火剤を配合して炎色反応を起こさせたもので、煙は染料などを蒸発させ空中で煙の色が見えるように散布させるものです。

酸化剤	一般的には硝酸カリウム、硝酸バリウム、過塩素酸カリウムを使用する。
可燃剤	硫黄や木炭は古くから使われており、レッドガム、ビンソールレジンなどの樹脂類、アルミニウム、マグネシウムなどの金属類を使用する。
色火剤	赤色は炭酸ストロンチウム、緑色は硝酸バリウム、黄色は ^{しゅうさん} 蓚酸ナトリウム、青色は酸化銅、強い白色光を出すためにアルミニウム、マグネシウムなどを使用する。
発煙剤	オイルレッド、オイルイエローなど、さまざまな染料や顔料を使用する。

その他、明るい火花や、昼の花火では音を出すためにアルミニウム、チタニウムなどの金属粉を使用したり、さまざまな薬品を使うことにより、多彩な変化を求めています。

打揚・仕掛 花火について

目次

1. 打揚花火	1 1
(1) 玉の種類と仕組み	1 1
(2) 昇曲付（昇曲導付）	1 2
(3) 昼の花火	1 2
(4) 玉名	1 2
(5) 玉の大きさと重さ	1 6
(6) 玉の高度と開き	1 7
(7) 打ち揚げ方と仕組み	1 8
(8) 打揚花火の鑑賞法	2 0
(9) 日本の打揚花火の特色	2 1
(10) 打揚花火の進化	2 2
2. 仕掛花火の種類	2 3
3. 伝統花火	2 4
4. 演出効果用花火	2 4

.....

1. 打揚花火

(1) 玉の種類と仕組み

打揚花火の種類はたくさんありますが、大別すると「^{わりもの}割物」、「^{はんわりもの}ぽか物」、「^{はんわりもの}半割物」に分類できます。

「割 物」 → 菊、^{ぼたん}牡丹、^{かむろぎく}冠菊、^{やし}椰子、型物など
「ぽか物」 → ^{しんごうらい}信号雷、^{こばな}小花、^{えんりゅう}柳、煙竜など
「半割物」 → ^{せんりん}千輪、^{こわり}小割など

「割物」とは、星（光や色彩、煙を出す部分の火薬）を割火薬で四方八方に飛ばす仕組みです。玉の中心から星が炭火色の尾を引いて丸く開くものを「菊」、尾を引かず初めから色の光が開くものを「牡丹」といい、円の中に芯が入ったものを「^{ちようちよう}芯入」、^{ちょうちょう}蝶々やハートなどさまざまな型を表現する「型物」などがあります。



割 物



型 物

「ぽか物」とは、玉が上空に達したときにその名のとおり、くす玉のようにぽかっと2つに割れていろいろな部品などを放出させるもので、運動会やお祭りなどの合図を告げる「信号雷」、星をホウキ状に放出させ光の線を落下させる「柳」、現在では珍しいパラシュートで発煙筒を吊りながら降下させる「煙竜」などがあります。

「半割物」とは、玉が上空の闇の中で開き、後からたくさんの小さな花が一斉に開くもので、「千輪」といいます。

のぼりきよくつき のぼりきよくどうつき (2) 昇 曲 付 (昇 曲 導 付)

玉の外側上部に取り付けられているもので、玉が上昇するときにさまざまな効果を現すアクセサリーのことをいいます。

代表的な種類では、ヒューという笛の音を出す「昇 笛付」、光の尾を真っすぐに引いていく「昇 朴付」、小さい花を段々に咲かせていく「昇 小花」などがあります。

(3) 昼の花火

昼間に打ち揚げる花火は、「ぽか物」が主流で、まず信号雷があります。

お祭りや運動会などの各種イベントの開催合図を告げるものでドーンと一つだけ音が鳴るものを「号砲」、三つ段差で鳴るものを「三段雷」、五つは「五段雷」、段差がなく複数が一斉に鳴るものを「万雷」といいます。

また、色煙を柳状に垂れさせる「彩煙 柳」や現在では珍しいパラシュートで発煙筒を吊り色煙の線で竜を描く「煙 竜」、パラシュートに旗が付いた「旗物」や人形や動物をかたどった紙製の袋を漂わす「袋 物」などがあります。

「割物」では色煙の星を菊花型に開花させる「煙菊」などがあります。

昼花火の面白さは、空の状況で変化する音や煙の効果を楽しむことです。

ぎよくめい (4) 玉 名

玉名とは、打揚花火一発ごとに付けられた日本独特の花火の名前のことです。この玉名の付け方には一定の決まりがあり、その花火玉が打ち揚がってから消えるまで、どういう現象を現すかを表現するもので、歌舞伎の外題にも似ており難解ではありますが、花火の内容や開いたときの情景を玉名で正確に思い描くことができるようになれば、まさしく本格的な花火通といえます。

「割物」の基本的な玉名

- ◎菊^{きく}…………… 火の花が丸くぱっと開き、星が中心から炭火色の尾を引いて広がっていく形で「引」ともいいます。菊の先が2色に変化する「変化菊」が多く使われます。
- ◎牡丹^{ぼたん}…………… 菊とは対照的に尾を引かず、最初から色の炎を出して開くもの。本来は芯の入ったものを牡丹、入っていないものを「満星^{まんぼし}」といいました。
- ◎冠菊^{かむろぎく}…………… 大きく開いた星がスーッと尾を引き垂れ下がるもので、童女の髪型「禿^{かむろ}」に似ていることが語源とされ、「錦冠^{にしきかむろぎく}菊」が多く使われます。
- ◎芯入^{しんいり}…………… 菊、牡丹、冠菊などの花の中心に芯があるものを芯入といい、二重の芯は八重芯、三重の芯は三重芯、四重の芯は四重芯、最近では五重芯もあります。
- ◎椰子^{やし}…………… 金色の太い花弁を椰子の葉のように開かせます。
- ◎型物^{かたもの}…………… 平面状や立体的に開き、ハート、笑顔、U F O、ひまわりなどいろいろな形状を表現します。



U F O（型物）



椰 子

「ぽか物」の基本的な玉名

- ◎柳^{やなぎ} …… 星が群れをなし、尾を引いて垂れ下がるもので、細い線で垂れ下がるものを「細柳^{ほそやなぎ}」、「糸柳^{いとやなぎ}」ともいいます。
- ◎蜂^{はち} …… ブルルンという音を発しながら不規則に回転するものが「蜂」で、パラパラッとたくさんの星が交差するものを「分砲」といいます。
- ◎花雷^{はならい} …… 音花火が白い花のように炸裂^{さく}するもので、一つだけ音が鳴るものを「花号砲^{はなごうほう}」、複数が一斉に鳴るものを「花万雷^{はなばんらい}」といいます。

「半割物」の基本的な玉名

- ◎千輪菊^{せんりんぎく} …… 大きな玉の中に小さな玉がたくさん入っているもので、時間差でいろいろな花が一斉に咲くことから「彩色千輪菊」、「百花園」ともいいます。
- ◎小割^{こわり} …… 落下傘で吊った小さな照明を、時間差で一斉に漂^{まつしま}わすものを「松島の夜景^{まつしまのやけい}」、「田毎^{たごと}の月^{つき}」などといいます。



千輪菊
(資料提供：両国花火資料館)



柳



千輪菊

「割物」と他のものを組み合わせた玉名

◎^{うきもよう}浮模様…………… 菊などが開花した後に、小花の群れが現れるもので、
「^{へんかぎくこわりうきもよう}変化菊小割浮模様」などといいます。

◎^{ざんこう}残光…………… 菊などが消えた後に、中心部に落下傘で吊った小さな
照明が漂うもので、「^{へんかぎくざんこう}変化菊残光」などといいます。

完成型の玉名

◎^{のぼりふえつきしんいり へんかぼたん}昇 笛 付 芯 入 変化 牡丹

ヒューという音を発しながら上昇した後に、芯を持った色火の星が丸い花を描き、星の色が変化します。

◎^{のぼりこのはつきや えしん へんかぎく}昇 木 葉 付 八 重 芯 変化 菊

光の尾と小さい花を咲かせながら上昇した後に、二重の芯を持った炭火色の尾を引く星が菊を描き、星の色が変化します。



八重芯菊
(資料提供：両国花火資料館)

◎^{しょうてんぎんりゅうこばなさきたいりんにしきかむろぎくこわりうきもよう}昇 天 銀 竜 小 花 咲 大 輪 錦 冠 菊 小 割 浮 模 様

銀の光の尾と小さい花を咲かせながら上昇した後に、大きく錦色に開いた星が光の線を描きながら垂れ下がり、後から小花の群れが一斉に咲きます。



八重芯



三重芯

（５）玉の大きさと重さ

花火玉の大きさは一般的に2.5号玉から40号玉まであり、地域にもよりますが普通の花火大会では5号玉ぐらいまでが主に使われています。

号数（以前は寸）は基本的に玉の直径サイズではなく、打ち揚げ筒の内径を表しています。例えば3号玉は内径3寸（約9.1cm）の筒で打ち揚げる玉のことで、玉の外径は約8.6cmになります。同様に10号玉（尺玉）の外径は約28.5cmとなります。また、1発に仕込む内容や細工が充実できる玉は5号玉以上で、それ以下の玉は主に玉数を多く打ち揚げるスターメインなどに多く使われます。

玉の重さは5号玉の割り物で約1.1kg、ぽか物は割物の約半分の重さです。30号（3尺玉）以上になると重さは200kg以上もあり、筒に装填するためにクレーンなどで吊り下げなければならないため大掛かりな準備作業が必要となります。現在、日本で一番大きな花火玉は40号（4尺玉）で、玉の直径は約114cm、重量は約420kgあります。



20号（2尺玉）
（資料提供：両国花火資料館）



錦冠菊小割浮模様

(6) 玉の高度と開き

打揚花火は、玉の寸法に応じて導火線の長さや打ち揚げ用の火薬の量を決めます。玉を開かせる高さも寸法により違うため、高度と開きのタイミングは演出面、安全面ともに花火師の重要な技術です。

また、空中で開く花火の広がりも玉の寸法、種類によって変わりますが、日本の花火は丸く大きく均一に開く割り物花火が特徴です。

花火玉の大きさと開かせる高さなど

玉の大きさ		開かせる高さ 約 (m)	玉が開いた直径 約 (m)
号 数	玉の外径 約 (cm)		
2.5	6.9	80	50
3	8.6	120	100
4	11.5	150	120
5	14.4	200	150
6	17.3	220	180
7	20.0	250	200
8	23.0	280	250
10	28.5	300	280
20	58.0	450	450
30	86.0	600	600
40	114.0	750	750

（７）打ち揚げ方と仕組み

打揚花火は打揚筒で花火の玉を打ち揚げ、上空で破裂させます。打ち揚げ方法は、基本的に単発打ち揚げ、連続打ち揚げ、スターメイン（速射連発）の３種類があります。

花火の打揚方法の分類

単発打ち揚げ	打揚筒に打揚火薬と花火玉を入れ、一発ずつ打ち揚げる。 点火は電気、速火線（ロングヒューズ）によるほか、その他の火種（落し火）を筒内に落として行う。
連続打ち揚げ	複数の打揚筒に打揚火薬と花火玉を入れておき、点火は電気、速火線（ロングヒューズ）、導火線によるほか、その他の火種を人が直接手に持って打揚筒内に落下させ、連続して打ち揚げる。 また、あらかじめ打揚火薬を取付けた花火玉を人が手に持って火種の入った打揚筒に落とす方法もある。
スターメイン （速射連発）	花火玉を使用する仕掛花火の一種で、大小多数の打揚筒に花火玉をセットし連続して打ち揚げることにより、まとまった効果を現すものであり、花火玉以外の演出用効果花火と組み合わせる場合もある。 点火は電気、導火線により遠隔操作で行う場合が多い。

※「スターメイン」の解説

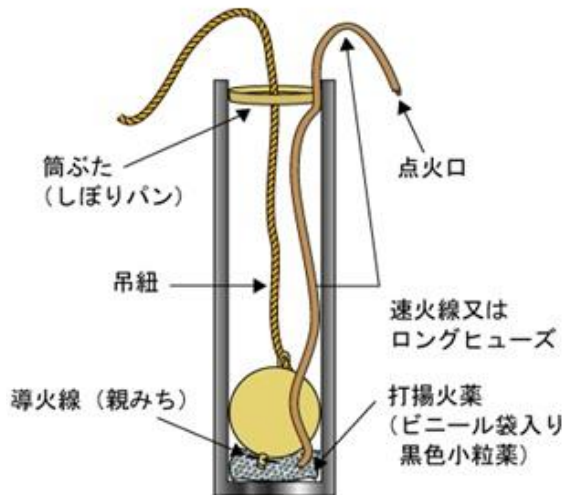
スターメインは速射連発ともいい、花火大会に欠かせない打揚方法です。

打ち揚げるタイミングやリズム感を重視する演出が必要であり、近年では電気による遠隔点火が主流で、さらにコンピューターの導入により、音楽とシンクロさせて広範囲に展開するスターメインがメインプログラムになる花火大会も多くなりました。

花火の点火方式

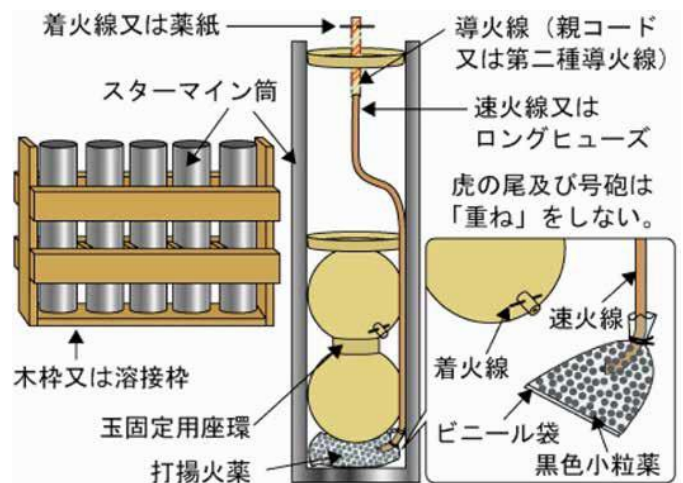
ロングヒューズ方式

◎速火線又はロングヒューズに点火して打ち揚げる



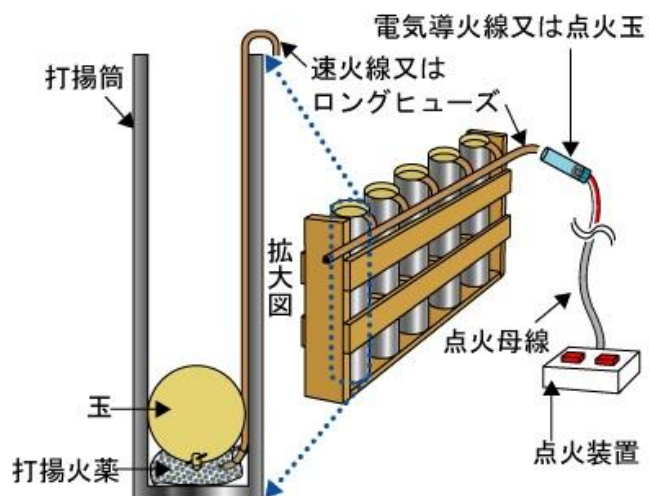
スターメイン方式

◎電気又は導火線などにより連続して打ち揚げる



遠隔点火（電気点火）方式

◎電気点火の接続・設置の概略（例）



(8) 打揚花火の鑑賞法

華麗な彩色、素晴らしい空間の造形、迫力の音響、夜空に花咲く花火を「わあーきれい」と無心に見るのも花火の一つの鑑賞法です。

けれども、日本の打揚花火の場合は、花火の一つ一つに名前「玉名」^{ぎょくめい}が付けられおり、その花火の内容を表現しています。

玉名が入ったプログラムのある花火大会では、花火と玉名とを見比べて、製作者の考えを想像しながら鑑賞するのも一興でしょう。

また、花火が開いて消えるまでの①～④の現象をチェックして良否を判断できれば、より一層花火鑑賞が楽しくなり、花火通にもなれます。

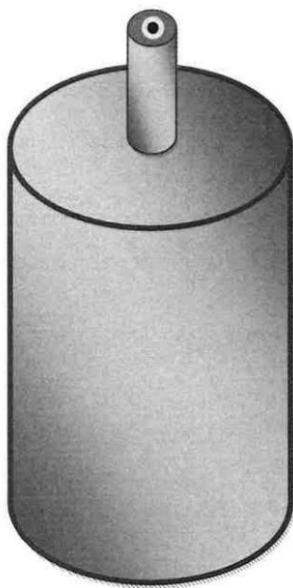
- ①「玉の座り」が良い → 打ち揚げられた玉がちょうど昇りつめたときに開く。
- ②「盆」が良い → 玉の大きさに見合った広がり、真ん丸く(真円球状に)開く。
- ③「肩」が良い → 飛び散る星が放射線状に真っすぐ飛んで円形に広がる。
- ④「消え口」が良い → 開いた星すべての先端が一斉にパッと消える。

（９）日本の打揚花火の特色

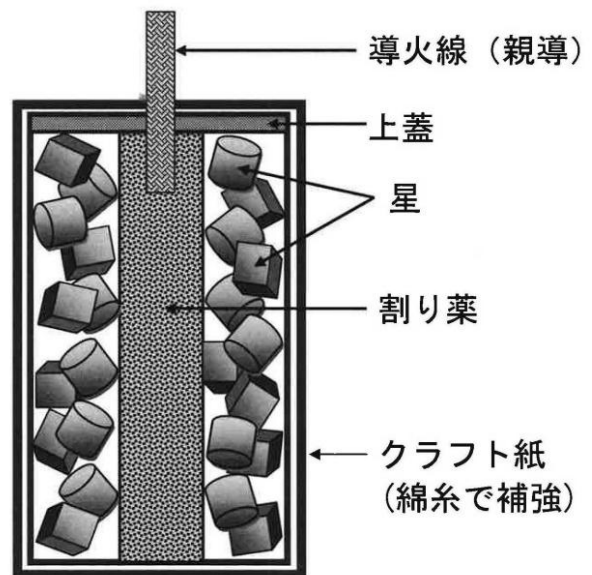
日本の花火、特に代表的割物花火「芯入菊花型花火」は、世界で最も精巧で華麗な花火といわれており、以下の三点が最大の特徴です。

1. 真ん丸く大きく整然と開花する。
2. 花卉の一つ一つの星が変化（変色）する。
3. 同心円に二重、三重の芯を重ねることができる。

日本の花火玉の形状は球形ですが欧米の玉は基本的に円筒形。中に入る星も日本は球状、欧米は円筒状です。日本の星は昔の飴菓子の変わり玉のように、異なった色の火薬を重ねます。欧米では火薬をプレスして固めるのが一般的です。



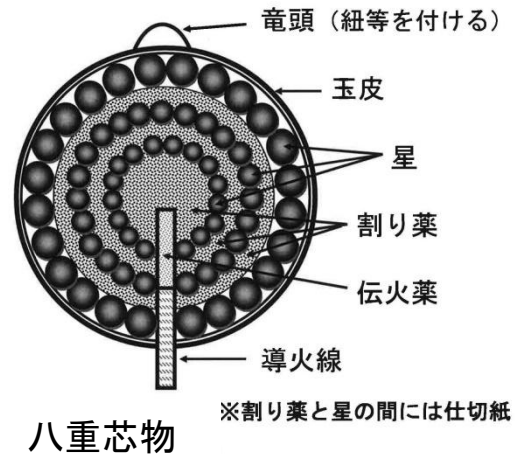
欧米型の花火



断面図

日本の花火は次ページの図のように球形の玉皮（容器）の中に星を球状にならべ、中央に割り薬（割り火薬）をつめ、玉皮の外周を丈夫な紙で何周も貼り固めて仕上げます。中央の割り薬の威力と紙の貼り具合とのバランスが取れていることにより、星は均一に飛び散り真ん丸く開花するわけです。この紙の貼り具合が均一でないと、丸く開かず、いびつな形の花になります。

円筒形の花火は上空で四方八方に星を飛散しないため、真ん丸くは開きません。欧米の花火は日本の花火とは違う色合いや、上空で何段にも咲く珍しい玉などが特徴です。小さい寸法の玉ではどちらも派手さの甲乙はつけられませんが、5号玉（15cm）以上は大きくなるほど、日本の花火の精巧で華麗な表現力が顕著に現れます。



また、日本の花火師は和紙を巧みに利用して、二重、三重に同心円（芯入花火）をつくる技術を完成しました。どこから見ても真ん丸で色の変化と消え際のよさ、という究極の調和美を完成させたのは、日本人の持つ美意識と職人気質の成果といえましょう。文字どおり先人を含む多くの花火師の血と汗と知恵の結晶です。最近では四重芯、五重芯にも挑戦しており、日本の花火師達の芸術的探究心に限りはありません。

（１０）打揚花火の進化

近年は星の色や花火の形状に新たな創作が見られ、いろいろなバリエーションになっています。色は水色、ピンク、レモンイエローなどのパステルカラーが増え、よりカラフルになってきました。形も円球状ではなく八方に星を飛ばす「八方咲き」系統や、星が時間で発光する「時差式発光」、多数の色彩が展開する「グラデーション」系統などの花火玉が通常の花火大会でも多く使われるようになりました。

花火大会の演出としては、コンピューターを使用した点火器による音楽とのシンクロが年々進化し、広範囲でスピード感あふれる展開ができるようになりました。



2. 仕掛花火の種類

仕掛花火には打揚火薬を使用するものとしないものがあり、種類もたくさんありますが、代表的なものを紹介しましょう。

◎柵仕掛 …… 図案に合わせて木柵などに^{えんかん}焰管（ランス）を取り付け、速火線で一斉に点火し絵や文字を表すもの。

◎綱仕掛 …… 柵仕掛の焰管よりも大きな焰管をロープなどに間隔をおいて吊るし、連結したもので、水平に張った「ナイアガラの滝」、山型に張った「富士山」が代表的。



柵仕掛



綱仕掛

◎打ち出し物 … 紙製のパイプに星、小割、笛、音などの部品を詰め、打揚火薬を使用し連発式に打ち出すもの。

◎水中仕掛け … 水面で一本の筒から十数本の火薬を詰めた筒が分離し、火を噴きながら動き回る「水中金魚」や、花火玉を水上に発射し星を扇状に開かせるものなど。



水上スターマイン

◎車花火 …… 中心部を固定した車輪上の柵などに火薬を詰めたパイプを取り付け、火薬の推進力で回転させ火の粉や色火を見せるもの。

3. 伝統花火

古い歴史を持った伝統花火は各地に伝承されていますが、特に有名なのは神社などの祭礼で、噴出薬を詰めた筒を手で脇に抱え空中に火の粉を噴出させる三河地区の「手筒花火」^{てづつはなび}です。

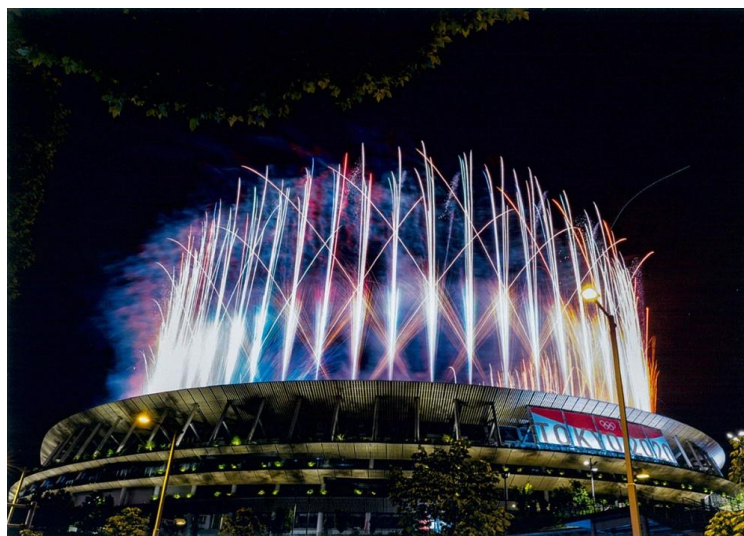
また、地上や取り付け台などに設置し噴出させるものは中部地方に多く見られ、「大筒」^{おおのし}「吹き筒」^ふ「三国」^{つつ}などと呼ばれています。

その他、「龍勢」^{りゅうせい}「火箭」^{ひや}と呼ばれるロケット式の花火や、人形に花火を取り付けロープで操る「綱火」^{つなび}など、江戸時代から続く地方色豊かな伝統花火が全国各地で行われています。

4. 演出効果用花火

映画、放送番組の制作、演劇、音楽、芸能公演、スポーツの興行、博覧会などで演出用に用いられる花火で、噴水のように火の粉を噴き上げる「ジャープ」、細かい星を噴出させる「マイン」、星が尾を引き飛んでいく「コメット」、閃光^{せんこう}を発する「エアバースト」などが代表的なものです。

世界各国の各種競技場やコンサート会場などでよく見られる花火で、種類や性能により屋内でも行われます。



おもちゃ花火について

目次

1. おもちゃ花火の種類	2 7
2. おもちゃ花火の生産と販売	3 0
3. おもちゃ花火に関する法的規制と当協会の安全基準	3 1
4. おもちゃ花火を安全に楽しむために	3 7
(1) おもちゃ花火を安全に楽しむための 1 1 力条	3 7
(2) 消費啓発活動	4 1
(3) マナーアップ運動について	4 3
(4) 花火の保管と処分方法	4 4
(5) 着衣に着火した場合の対処方法	4 4
(6) やけどをした時	4 4
(7) その他注意事項	4 4

.....

1. おもちゃ花火の種類

おもちゃ花火は、メーカーや機能によって何百製品もあり、それぞれに名称が付いています。法律上の区分によると次の8種類になりますが、使用される火薬類は花火の性能や現象によって危険度の少ないごく少量（0.004～15g）が用いられています。

（1）炎・火の粉・火花を出す花火（例）

吹き出し（噴水）	筒形の花火で筒先に火を付けると、炎や火花を出す。導火線付きのもので、噴火山のように勢いよく吹き上がるものや細長い筒に竹ひごを取り付けたすすきなどがある。火薬量 15g 以下。（筒物）
スパークラー	針金や竹ひごに火薬を塗ったもので、火薬量は 10g または 15g 以下のもの。（ねり物）
線香花火	火薬が燃えて後に残った燃えカスが縮み上がり赤い火の玉になってから、パッパッと松葉火花が散るもの。火薬量は 0.5g 以下。

※ほかに、スモールトーチ、朝顔、ナイアガラ、銀波、コメット、サーチライトなどがある。

（2）回転する花火（例）

ピンホイール	円盤の周囲に火薬が入った細長い筒を巻きつけ、火を付けると回転するもの。火薬量は 4g 以下。
サキソン	薬筒の側面に噴射孔を持ち、それを円盤や型紙に装着し、火を付けると回転するもの。火薬量は 4g 以下。

(3) 走行する花火（例）

金魚	点火して水上に置くと水上を走行する。火薬量 2g 以下のもの。
花車 (ねずみ花火)	火を付けると、くるくる回り、最後に音を出す。火薬量 1g（爆発音を出すものにあつては火薬量 0.9g）以下、爆薬 0.1g 以下のもの。

※ほかに、小笛、ケーブルカー、爆龍などがある。

(4) 飛翔^{ひしょう}する花火（例）

笛ロケット	火薬が入った筒に竹などでできた棒状の尾を付けたもので、火を付けるとピューッと鋭い笛音を出しながら空中に上がる。火薬 0.5g 以下、爆薬（笛音薬）2g 以下のもの。
流星(ロケット)	火薬が入った筒に竹などでできた棒状の尾を付けたもので、火を付けると火の粉を吹き出して空中に上がる。火薬量 2g（爆発音を出すものにあつては火薬量 1.9g）以下、爆薬 0.3g 以下のもの。
人工衛星	火薬が入った筒にプロペラ状の翼を取り付けたもので、火を付けると竹とんぼと同じように回転しながら空中へ昇る。火薬 1.5g 以下のもの。

(5) 打上げ花火（例）

単発打上げ	筒物で火を付けると数個または1個の星を1回打上げる。火薬量は 10 g 以下。
連発打上げ (乱玉)	筒物（筒の内径 1 cm以下のもの）で火を付けると星が間欠的に飛び出す。5 連発から 20 連発程度のものがある。火薬量は 15g 以下。
内筒打上げ (パラシュート)	筒物で上空にて内筒からパラシュートまたは色星を放出する。火薬量 10g 以下。（パラシュートは昼花火）

(6) 爆発音を出す花火（例）

クラッカーボール (かんしゃく玉)	直径 1 cm 以下、重量 1g 以下のボール状で、投げつけると爆発して音を出す。爆薬は 0.08g 以下。
クリスマス クラッカー	糸を引くなど、摩擦を与えるとパンと音がしてテープや小紙片を放出する。爆薬 0.05g 以下。
平玉	打撃を加えて音を出すもので、平玉は平板な紙に発音薬を半球状に並べてあるもの、プラスチックで成型したキャップといわれるものもある。爆薬は 0.01g 以下のもの。
爆竹	ファイヤークラッカー（1 本が火薬量 1g 以下、爆薬 0.05g 以下のもので筒の外径が 4 mm 以下）を導火線で編み合わせ連結したもの。20 連結まで。

(7) 煙を出す花火（昼花火）（例）

煙幕	円筒形で、色煙を出す。火薬量は 15g 以下。
スモークボール	球形で、色煙を出す。火薬量は 15g 以下。

(8) その他（例）

へび玉	円筒状の固形物で、火を付けるとニョキニョキとへびのように残滓（ざんし）がのびる。火薬量 5g 以下のもの。
-----	---

<注意>

以上のように火薬類取締法により、おもちゃ花火の火薬量と性能現象は決められています。がん具煙火として法に規定されたもの以外は煙火になります。煙火は都道府県知事の消費の許可または消防署などに消費届出をしなければならない場合がほとんどです。

2. おもちゃ花火の生産と販売

おもちゃ花火は、7～8月に最も多く販売されています。

国産のおもちゃ花火の主な産地は、江戸時代、徳川幕府の火薬製造所のあった愛知県岡崎市を中心とする一帯で、ここだけで国内生産の約4割を占めています。次いで愛媛、静岡、福岡などで多く生産しています。ちなみに、打揚花火（仕掛花火含む）の製造所は全国に散在していますが、中でも秋田、新潟、長野、静岡、愛知などが多く生産しています。

一方、おもちゃ花火は海外からの輸入品が多く、主な輸入国は中国です。

協会に加盟している花火業者は約300社、そのうち、おもちゃ花火を生産・販売しているのは約40社です。規模的には、従業員20人以上の会社はごくわずかで、10～20人以下で生産・販売しているケースがほとんどです。

さて、おもちゃ花火の販売面では、よく売れるのは単品ものの場合200円～1,000円ぐらいのものです。何種類かの花火を詰め合わせたセットものに人気があり500円～2,000円が一般的ですが、中には10,000円以上のセットものもあります。

【おもちゃ花火の最近の傾向】

毎年約50点の新製品が発売されておりますが、必然的に製品寿命は短くなっているようです。これは一般的な消費製品動向と同様と思われます。

手持ち吹き出し花火や噴出花火では、火花の形態や変化に凝ったものが増えてバリエーションが豊富になってきています。また、家の庭など小スペースで楽しめるよう消費環境に配慮したおもちゃ花火がつけられるなど消費者の嗜好^{しこう}に合わせた製品が増えているようです。

3. おもちゃ花火に関する法的規制と当協会の安全基準

子どもの成長において、おもちゃ花火が担っている役割には、無視できないものがあります。美しく変化する五彩の光、くるくる回るねずみ花火から分かる回転の動き、飛翔^{ひしょう}するロケット花火の原理など、さまざまな事象を教えてくれるとともに、家族のコミュニケーションにも役立っています。

しかしながら、最近子どもたちの遊び方も変わり、ゲームなどに熱中して外遊びが少なくなったり、危険だという理由で親が子どもに花火をさせない例もあるようです。暑い夏の一夜に親しい人が集まり、花火を通じて楽しいひとときを過ごすことも大切ではないでしょうか。

おもちゃ花火の販売は、早いところでは5月の連休ごろから始まり、夏休みに入り8月の旧盆ごろにシーズンが終わるのが以前の例でした。しかし、最近ではこの流れが変わり、9月になっても商品が動くなど、販売期間がずれているようです。これは夏の猛暑を避け、初秋のころに花火遊びを行う傾向もあるようです。

子どもを主な消費者とするおもちゃ花火は、特にその品質を高める必要があるのはもちろん、誤使用のないように業界をあげてさまざまな啓発活動（詳細は後述）に努力しております。

おもちゃ花火は、「火薬類取締法施行規則」によって、薬量や形状、およびその構造上の基準などが定められています。これは昭和35年（1960年）の法改正の際に定められたもので、当協会では、それに加えて消費者の安全を図るため、自主的におもちゃ花火の安全基準を制定しました（34ページ参照）。さらに、「がん具煙火検査所（現在は検査所という）」を昭和52年（1977年）に設立し、“基準検査（法定基準）”と“安全検査”を実施しております。当初東京都府中市に建設された検査所は、昭和63年（1988年）から愛知県豊橋市に移転し、年々設備を充実して、国内産はもちろん、輸入品についてもすべて厳格な検査を行っています。

このようなおもちゃ花火の品質管理と安全規制の方向は、海外においても大きな流れとなっています。

例えば、世界最大の消費地であるアメリカでは、1年間におもちゃ花火（日本とは、薬量などの規制が異なる）の事故で1万人近くが治療を受ける状況であり、全花火の90%以上が中国品です。そのため、抜き取り試験、中国国内で輸出前検査や中国検査当局と米国消費者製品安全委員会との間で連絡を密にするなどの対策を取っています。欧州では花火の安全についての欧州規格が制定され法律で適用が義務付けられました。台湾でも花火の基準が定められ、安全審査が実施されています。また、煙火の国際規格（ISO）が制定されています。

以上のように、花火について世界的に安全チェックが行われはじめましたが、日本ではすでに約50年前から業界をあげて安全に取り組んでいます。

花火を文化として持続するために私たち花火製造・販売業者は、さらに製品の品質向上、安全化に努めるとともに、花火に対する理解を深めていただき、これからも安全な消費を呼び掛けてまいります。



フォトコンテスト入賞作品より

当協会の安全基準の詳細は以下の通りです。

（１）安全基準に関する各種検査および規格マークと合格マーク

おもちゃ花火の安全を期するために、検査は“予備検査”と“本検査”の２つの検査をします。

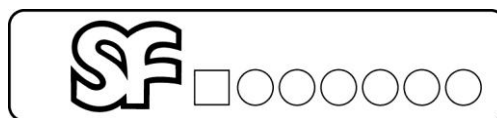
予備検査 は、新たに製造または輸入しようとするおもちゃ花火に関して事前に、**①基準検査**（火薬類取締法に適合しているかどうかの検査）と**②安全検査**（当協会が規定した安全基準に適合しているかどうかの検査）を行い、これに合格してはじめて、国内を流通できる製品の製造や輸入が認められるものです。この“予備検査”に合格すると、型式認定の証として規格記号番号が付与されます。

本検査 は、国産の場合には１年に１回以上市場に出る以前に、また、輸入品の場合は輸入されるたびに、もう１度、前述の**①**と**②**の両検査を実施します。この“本検査”に合格すると「合格マーク（合格証）」の表示が認められます。従って、このマークが付いているおもちゃ花火は、当協会の本検査に合格しているということを証明しているわけです。万一その花火自体の欠陥で消費者に損害を与えた場合、製造・輸入元および販売元が賠償します。ただし、使い方が悪く、本人の過失、不注意による場合には、賠償されません。使用方法や注意事項は、安全のために必ず守っていただく必要があります

合格マーク（合格証）



基本表示



略式表示

※2026 年に合格マーク(合格証)を改正しました。既に交付された旧マークでも検査に合格したことに変わりはありません。

＜検査および検査内容＞

		検査内容	検査に合格すると
予備検査	(1) 基準検査	がん具煙火の火薬の量、現象および一部の製品の寸法は、火薬類取締法で決まっています。この法律に定められた基準に合っているかを試験するものです。	型式認定の証として規格記号番号が付与されます。
	(2) 安全検査	当協会が規定した安全基準に適合しているかどうかの検査です。これは、実際に使う場合に危険がないか、手に持つ “柄” や “ひも” “筒” の寸法をチェックしたり落として発火しないか確かめたり、火を付けて正しく燃えるかなど、“がん具煙火” の構造や現象、使い方の表示などにいたるまで確認試験をします。	
本検査	(1) 基準検査	予備検査の基準検査と同様	合格マーク(合格証)を印刷等して表示します。 形状や大きさ等によって個々に表示することが困難な場合は内装に用いられる小箱、または小袋に表示するか、添付紙に表示します。
	(2) 安全検査	予備検査の安全検査と同様	

(注) 市場商品のほとんどは S F マーク表示がなされています。さらに、現在市場に出ている製品については、試買検査を行い安全性の徹底に努めています。

（２）事故の対応

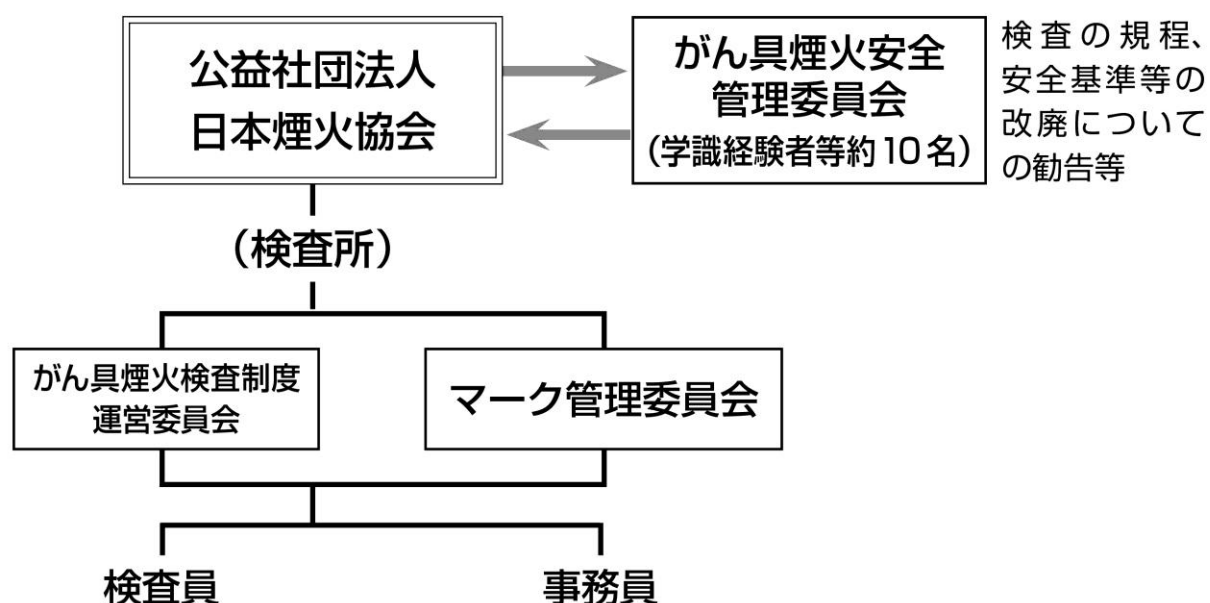
安全基準に適合していると認められたおもちゃ花火には、昭和 53 年から生産物賠償責任保険（一般に PL 保険といわれるもの）が付保されています。万一それ自体の欠陥により消費者または第三者に損害を与えた場合、賠償が行われます。ただし、本人の過失・不注意による場合は賠償されません。

（３）検査機関について

前述の各種検査については、経済産業省（旧通商産業省）のご指導により当協会に「検査所」を設けて行います。

「検査所」は、がん具煙火検査制度運営委員会、マーク管理委員会の監督を受け、常に検査の確実な実施に努めています。さらに、自主検査のよりよい成果をあげるため、がん具煙火安全管理委員会が置かれ、学識経験者など（約 10 人）による監督、諮問が行われています。

＜検査機関の仕組み＞



実際に検査に当たる「日本煙火協会・検査所」の詳細は以下の通りです。

1. 名 称：公益社団法人 日本煙火協会 検査所
2. 所在地：愛知県豊橋市石巻西川町字吉祥 18-17 (〒441-1102)
TEL 0532-88-5581 FAX 0532-88-4795
3. 所 員：7 人
4. 施 設：本館（鉄骨造）平屋 1 棟
燃焼実験室 1 棟
その他 2 棟
5. 設 備：各種測定治具、摩擦感度試験機、落球・落槌感度試験機、高倍率顕微鏡、X 線分析装置付電子顕微鏡（SEM-EDX）、X 線非破壊検査装置、赤外分光光度計、示差熱天秤（TG・DTA）装置、ガスクロマトグラフ、万能引張試験機、高速度カメラ、粒度分布自動測定装置、音響測定分析装置、気象観測装置、顕微鏡加熱装置、各種圧力容器試験装置、X 線回折装置、高速液体クロマトグラフ、実体顕微鏡装置、C-80 微小熱量計、自動ボンベ熱量計、その他



日本煙火協会 検査所

4. おもちゃ花火を安全に楽しむために

(1) おもちゃ花火を安全に楽しむための 11 カ条

- ① おもちゃ花火といっても花火の原料は火薬類。花火に書いてある遊び方、警告・注意書きをよく読んで、必ず守る。
- ② 花火を人や家に向けたり、燃えやすい物のある場所で遊ばない。衣服に火が付かないように注意する。
- ③ 手持ちの筒もの花火は、手の位置に注意する。
- ④ 風の強いときは、花火遊びはしない。
- ⑤ 水を用意する。
- ⑥ 大人と一緒に遊ぶ。
- ⑦ たくさんの花火に、一度に火を付けない。
- ⑧ 正しい位置に正しい方法で点火する。
- ⑨ 花火は、途中で消えても筒をのぞかない。点火するときも筒先に顔や手を出さない。
- ⑩ 花火をポケットに入れない。
- ⑪ 大変危険なので、花火は絶対に分解しない。



(詳細は次ページ以降をご参照ください。)

楽しい花火遊びでケガなどの事故や、火災などを引き起こすことがないように願いながら、まず、おもちゃ花火の正しい遊び方について注意すべき点を解説いたします。

① 花火に書いてある遊び方をよく読んで必ず守りましょう。

花火遊びにもルールがあります。“絶対に手に持って使用してはいけない花火”（打上げ花火など）があります。遊び方をよく読みましょう。

事故事例 使用方法の間違い

兵庫県 男性 48 才

スモークボールを手に持って点火したところ発煙し、手を火傷^{かしょう}。

② 花火を人や家に向けたり、燃えやすいもののある場所で遊んだりしないようにしましょう。衣服に火が付かないように注意しましょう。

花火遊びをするときは、筒先の方向・場所などにくれぐれも注意しましょう。衣服が燃えると大きなヤケドとなることもあります。また、線香花火は火の玉が落下しますので足元に注意してください。

事故事例 着衣着火

京都府 女性

手持ち花火の火花が衣類（綿製のロングスカート）に着火し、一部を焼損し両手のひらを火傷^{かしょう}。

③ 手持ちの筒花火は、手の位置に注意しましょう。

手持ちの吹き出しものは、筒底を握らず、筒の中程より少し下を持ち、体から離して使用するとよいです。

④ 風の強いときは、花火遊びはやめましょう。

風の強いときは、遊ばないことです。点火の際は、体を風上にして、風下の人が火の粉をかぶらないよう、風の方向に注意しましょう。

⑤ 水を用意しましょう。

バケツの水に終わった花火を漬けると、残り火を完全消火し、燃えかすで庭や道路を汚さずにすみます。途中で消えた花火は水に漬けましょう。



⑥ 大人と一緒に遊びましょう。

花火遊びは危ないとおこられたため、子どもたちだけで隠^{かく}れて遊び、事故を起こした例が少なくありません。大人が積極的に参加して、花火の正しい扱い方、火の後始末^{あとしまつ}を指導してあげてください。

⑦ たくさんの花火に、一度に火を付けないようにしましょう。1本ずつ遊びましょう。

1本ずつ火を付ければおとなしい花火でも、数本まとめて火を付けると、一挙に大きな炎になって危険です。

事故事例 まとめ消費

香川県 男性 31才
スパークラーをまとめて着火し、右手に火傷^{かしょう}。

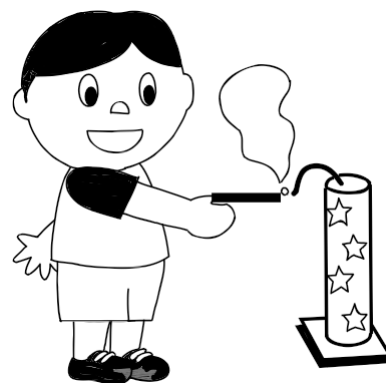


⑧ 正しい位置に、正しい方法で点火してください。

点火の位置が種類や形状によって異なります。点火方法を確認^{かく}めてローソクまたは線香で点火しましょう（マッチ・ライター、花火は使わないこと）。

事故事例 ライター着火

東京都 男性 20才
打上げ花火にライターで点火したところ、着火と同時に打ち上り、目と周囲^{かしょう}を火傷^{かしょう}。



⑨ 花火は、途中で消えても筒をのぞかない。点火するときも筒先に顔や手を出さない。

途中で火が消えても筒をのぞいてはいけません。大けがになることもあります。

事故事例 **のぞき込み**

兵庫県 女性 20才

打上げ花火を導火線に点火後のぞき込んで左目を星が直撃。視力が低下。

⑩ 花火をポケットに入れてはいけません。

転んだり、ぶつかり合ったはずみで発火してヤケドをするなど、思いもよらぬ事故につながります。

⑪ 花火を分解して遊ぶことは危険です。絶対にはいけません。

花火を分解したり、火薬を集めたり、異種のものを混ぜるのは、大変危険です。絶対にしないこと。

事故事例 **分解**

千葉県 中学3年 男子

花火を分解し火薬を容器に入れていじっていたところ爆発。

親指の付け根を骨折。

以上のような注意事項を守っていただければ、まず事故や火災は起こりませんが、万一、おもちゃ花火の欠陥のために事故が起きた場合は、公益社団法人日本煙火協会検査所までご連絡ください。なお、事故原因となった花火は、必ず保存しておいてください。

公益社団法人 日本煙火協会

検査所 愛知県豊橋市石巻西川町字吉祥 18-17 (〒 441-1102)
TEL. 0532-88-5581 FAX. 0532-88-4795

(2) 消費啓発活動

啓発活動の重要性は、一言で言えば、「消費者に対する啓発活動は、製品品質と合わせてがん具煙火の安全の両輪をなす」につきます。

近年花火の生産者には、製造物の危険性に関する情報開示が求められています。また、同時に安全消費のための消費者教育も求められています。

当協会は、花火という危険物を取り扱う関係上、協会創設以来、継続的に啓発活動を実施してきました。今後もあらゆるメディアを通して、多くの子どもたちに、花火の正しい知識を普及し、安全に楽しんでいただけるよう本活動を推進していきます。

当協会では、次の啓発活動を行っています。

① ポスター、しおりの配布

おもちゃ花火を安全に楽しむための安全啓発ツールとして、安全消費の啓発ポスターとおもちゃ花火の種類や使い方を記したしおりを、行政機関をはじめとする全国 1200 ヶ所に配布しています。ポスターとしおりの電子版は協会ホームページからダウンロードできます。

表 ポスター・しおりの配布枚数

年 度	ポスター（枚）	しおり（部）
令和 3 年（2021 年）	13,707	14,153
令和 4 年（2022 年）	13,504	14,162
令和 5 年（2023 年）	13,528	14,186
令和 6 年（2024 年）	13,559	14,117
令和 7 年（2025 年）	13,363	13,821

令和 8 年度ポスター



<主な配布先>

経済産業省各保安監督部、各都道府県火薬類担当、各都道府県保安協会、
全国各消防本部、各都道府県教育委員会、花火業界関係団体、協会員、など

② 安全消費ビデオの制作と配付

おもちゃ花火を安全に楽しくお使いいただくために、当協会ではDVD ビデオを作成し配付(有償)しております。

当該ビデオでは、花火の歴史、科学、当協会での安全対策と品質管理、使用上の注意点を親子で見ても楽しめるように平易にまとめました。

③ ホームページと消費安全広報 (www.hanabi-jpa.jp)

日本煙火協会のホームページでは、おもちゃ花火の安全な遊び方や事事故事例を掲載し安全消費広報活動に努めています。また、重大製品事故情報も公開しています。



④ おもちゃ花火教室の開催支援

全国の消防機関と協力して、おもちゃ花火による消費安全と火災予防のために全国の消防機関が開催する「おもちゃ花火教室」に資材を提供するなど協力しています。

令和7年(2025年)の「おもちゃ花火教室」では北海道から沖縄の37道府県で合計約2,000ヵ所、延べ約10万人の保育園・幼稚園児を中心とした子どもたちが参加し、地域の消防や関係者の指導のもと、花火を安全に楽しむための指導教育が行われました。

当協会は花火の安全消費を支えるべく、品質管理に努める一方で、40年以上継続して各地域での「おもちゃ花火教室」の開催に協力し、消費者に向けた安全消費を啓発しております。毎年の継続的な活動により各地でもご好評をいただき令和8年(2026年)も昨年同様「おもちゃ花火教室」の開催に協力してまいります。



(愛知県)



(神奈川県)

2025年の主な支援先：北海道、秋田県、福島県、茨城県、埼玉県、神奈川県、静岡県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、愛媛県、福岡県、鹿児島県の消防機関など

⑤ パブリシティ活動（マスメディアに消費安全情報の提供）

新聞社や通信社などマスメディアに本冊子を提供しマスメディアに消費安全情報を流しています。また、通信社を通じてがん具煙火の安全

消費記事を配信しています。

(3) マナーアップ運動について

本来、おもちゃ花火は身近な公園で遊ぶことができるものですが、深夜の花火遊びや後片付けをしないなど消費場所での周辺住民などへの迷惑問題が深刻化しており、マナーの欠如した花火遊びに端を発したトラブルなどが問題視されています。このようなマナー違反の増加に伴い、公園や海岸などで花火使用の制限を定める自治体が増え、花火の消費場所は年々少なくなっています。

日本煙火協会では、マナーアップを呼びかけるため、ポスターやしおりなどを配っています。また身近な公園などで「わくわく花火スクール」を開催しています。より多くの皆さまに知っていただけることを目的としてマナーアップ運動を展開しています。

「わくわく花火スクール」開催風景



(東京都)



(大阪府)

—— 毎年、楽しく花火をするために ——

●時間、場所についてのルールを守りましょう

(お住まいの自治体のルールをご確認ください)

●音の出る花火は、人の迷惑にならない場所と時間を選びましょう

高く上がって音のする花火は、マンションなどに飛び込んで破裂し驚かせ、ケガをさせた例があります。飛翔するものは、飛ぶ方向と音に気を付けましょう。

●風向きを考え、煙で迷惑にならないようにしましょう

夏は窓を開けている家も多いので、煙が入らないように風向きに気を付けましょう。



“ 花火遊びは、迷惑にならない
ルールとマナー ”



(4) 花火の保管と処分方法

●保管について

- ①湿気が少なく、直射日光の当たらないところに置いてください。
- ②火気が近くにならないところに置いてください。

●処分方法について

どうしても「おもちゃ花火」を処分しなければならない場合は、水をたっぷり入れたバケツに 1 日以上浸した後に、少量ずつゴミ袋に入れ可燃ゴミとして捨ててください。

(5) 着衣に着火した場合の対処方法

- ・着火した部分を叩いたり、水をかけたりしてください。
 - ・水がない場合は地面に転がって燃えているところを地面に押し付けて消火してください。
- (走ると火の勢いが増す可能性があります。危険です。)

(6) やけどをした時

花火遊びをしている時にやけどをしたら、応急手当をしてください。

- ①すぐに水で冷やしてください。
 - ・水道水などの清潔な水で 15～20 分程度冷やしましょう。
 - ・衣類を着ている場合は、衣類ごと冷やしましょう。
 - ・水泡を破らないようにしましょう。
- ②やけどの範囲が広い場合は、至急医療機関を受診してください。
受診する場合にも、まず冷やしてから医療機関に向かいましょう。

(7) その他注意事項

●花火は危険物。郵送、飛行機への持ち込みはできません。

おもちゃ花火は危険物です。郵便法、航空法の指定により、郵送と飛行機への持ち込みができません。ご注意ください(クリスマスクラッカーを持ち込んだため、飛行機の離陸が遅れた例があります)。

おもちゃ花火の種類（例）

炎・火の粉・火花を出す花火

1. 手に持つもの……先端から火花や火の粉が吹き出るススキ、絵型もの、スパークラーや線香花火など。
2. 地上に置くもの……火の粉、火花を噴き上げるものなど。

<遊び方のポイント>

- 柄のはしを持ち、火をつけたら体から離して遊びましょう。
- マッチやライターでの点火は危険です。缶などにローソクを立て、その火で付けましょう。

- 1本ずつ遊びましょう。特にスパークラーなど火薬が露出しているものは、束ねて点火すると、いきよに大きな炎となって燃え上がるので危険です。

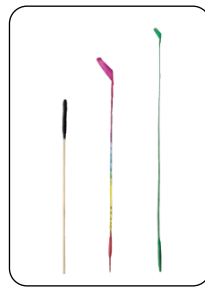
- 地上に置くものは、倒れないように真っ直ぐに立て、導火線の先端に線香で火をつけ、すばやく離れます。手に持って火を付けてはいけません。
- 火が途中で消えたようでも決してのぞかないこと。



すすき花火



スパークラー



線香花火



2. 地上に置くもの

打上げ花火（絶対に手に持って遊ばない）

1. 単発花火
1回だけ星が光や火の粉を出しながら打ち上がるものや、筒が打ち上がり上空で赤や緑の色星などを放出するものがあります。
2. 連発花火
赤や緑の星などが続けて上がるものや、次々と筒が打ち上がり色星などを放出するものがあります。

<遊び方のポイント>

- 絶対に手に持って遊ばないこと。
- 長い筒ものは、しっかりと固定するか、杭などにしぼります。
- 地上に置くものは、倒れないように真っ直ぐに立て固定します。
- 導火線の先端に線香で火をつけて、すばやく離れます。

- 決して筒先に顔や体を出さないでください。ケガになることがあります。
- 家や燃えやすいもののない広い場所で遊びましょう。
- 風下には火の粉が飛びます。
- パラシュートは、昼間電線や家のない広い場所で遊び、風のあるときはやめましょう。



固定の必要があるもの



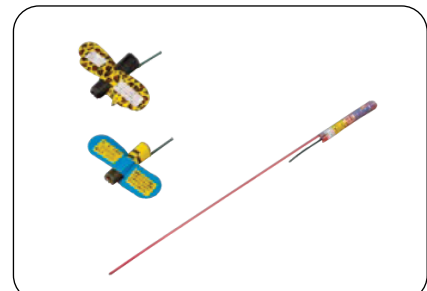
地上に置くもの

飛ばしうする花火

ロケットや回転上昇する花火。

<遊び方のポイント>

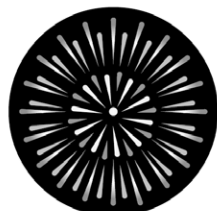
- 家や燃えやすいもののない広い場所で遊ぶこと。風の強いときはやめましょう。枯草や家の中に飛び込んで火災になった例があります。
- ロケットは、安定した容器（細口のビンなど）に真っ直ぐに立てる。
- 回転上昇ものは、平らな地面に置いて使います。
- 導火線の先端に線香で火をつけて、すばやく離れます。



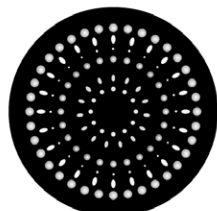
飛ばしうする花火

打揚・仕掛花火の種類（例）

〈夜もの花火〉



菊



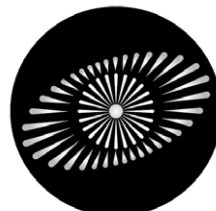
牡丹



大柳



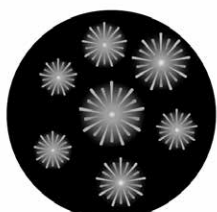
椰子



土星（型物花火）



蝶々（型物花火）



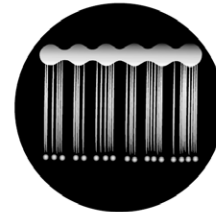
千輪



柳

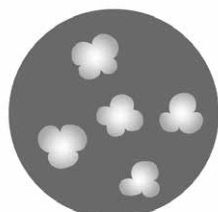


スターマイン
（連射連発）



滝（仕掛花火）

〈昼もの花火〉



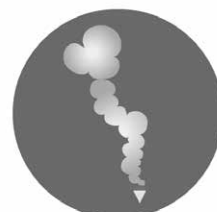
信号雷（5 段）



煙菊



煙柳



煙竜

花火入門 令和8年度版

※内容に関するお問い合わせは

公益社団法人日本煙火協会 事務局

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2丁目4番9号 人形町双葉ビル7階

TEL: 03-5652-7855 FAX: 03-5652-7857

公益社団法人日本煙火協会 検査所

〒441-1102 愛知県豊橋市石巻西川町字吉祥18-17

TEL: 0532-88-5581 FAX: 0532-88-4795

URL <https://www.hanabi-jpa.jp/>

